Library News
山口大学附属図書館報
ISSN 0388-5569
VOL.3 NO.1
1982.2

目次

図書館業務の電算化と情報処理センター　清水茂俊……1
学術情報システムと図書館　岩城秀夫……2
図書館業務の電算化計画について……3
お知らせ（貸出、返却業務の電算機処理について）……7
昭和55年度全国共同利用図書資料（大型コレクション）案内……10
日誌……10

◇◇◇図書館業務の電算化と情報処理センター◇◇◇

清　水　茂　俊

このたび、はからずも工学部分館長と情報処理センター長を同時にお引き受けすることになりました。図書館業務の電算化が進みますと、一方はセンターを利用する側であり他方は管理する側であって、前者は要求する側、後者は要求される側といった事を、一人で両面を使いわけるという極めて妙な立場になりました。

そもそも情報処理センターは、研究、教育、図書館業務および事務処理を4本の柱とした全学共同利用の施設として本年8月発足し、1月より新システムによる業務を開始しました。現在いわばならし運転中ですが、学生の卒業論文や修士論文の最後の追込みの時期で、センターでは毎日夜9時まで時間延長して1日平均約400件のジョブを処理しています。この中には山口分室、小串分室から専用回線を通して利用されるジョブや公衆回線から音響カプラーによって利用されるジョブも含まれています。

一方、図書館の方は、昨年夏以来、ワーキンググループを作って非常に積極的に業務の電算化に向って準備を進められ、工学部分館に於ても、現在約13,000冊の開架図書のIDラベルを貼布し終り、その主要項目をオフラインでフロッピーディスクに記憶させてゆく作業が進められています。3月までには、学術雑誌約25,000冊についても同様な作業が終り、これらの情報をセンターのディスクの中に記憶させて、4月からはコンピューターによる閲覧業務が開始されることになりました。この作業は本館でスケジュールを組まれ、各分館ともに一斉に歩調を合せて進行していると聞いています。

センターとしても4本の柱の1本が着々と建てられてゆくのは歓迎すべきことであり、たいへん喜ばしく思っています。

ところで、図書館にはいうまでもなく、膨大な蔵書を保管する書庫が必要ですが、図書館の業務の電算化には、書庫に相当する情報を貯える大容量のファイル（ディスク）が必要であります。センターの2次記憶装置は公称5,000 MB、実容量約3,020 MBであって、この内、システム専用の750 MB、システム入替え用の予備470 MBを除くと、一般ユーザーに開放出来る容量は1,800MBになります。

1月現在ユーザーの予約ファイルは1,150MBになっていて、残りの容量は650MBしかありません。

一方図書館業務の電算化計画に対しては、NECの方でソフトを作っていますが、図書1冊につき必要なファイル容量は2 KBと聞いています。仮に10万冊をファイルすると200 MB必要になります。図書館では図書のファイルの他に、データーベースとしてJAPAN MARCを毎年入れてゆく計画です

が、このため１年毎に100MB必要になります。図書館の電算化には、いかに大容量のファイルが必要か御認識いただけるものと思います。

センターの限りあるファイル容量に対して、一般ユーザーの需要と図書館側の要求とをいかに按排してゆくかが工学部分館長と情報処理センター長と一人二役を演ずる者の悩みの種であります。いずれ関係者との話し合いの上で何とか遣り繰りしてゆきたいと思っています。

なお、文献等の情報検索については、情報処理センターの各端末からＮＩ回線によって九州大学大型計算機センターのデーターベースが利用出来ます。また九大からはDDX回線により、東大その他７大学の大型計算機センターのデーターベースの利用が可能になりました。近日中に利用者には、利用方法と全国共同利用大型計算機センターのデーターベースの内容等について、お知らせする予定でいますので大いに御利用下さい。

文部省では、学術情報の共有とサービスを目的として全国の大型計算機センター、各大学の情報処理センター（計算センター）および図書館その他の共同利用機関をネットワークで結びその中枢となる学術情報センターの設置を昭和59年度を目処に計画中であります。

今後は全国ネットワークの中の一つとして附属図書館と情報処理センターは、ますます密接な関係を保ちながら発展してゆくことを期待して止みません。　（工学部分館長・教授）

◇◇◇学術情報システムと図書館◇◇◇

岩　城　秀　夫

情報過多ということばを、しきりと目にし耳にした時期があった。雑談のときにも二言目にはそれが出た。だが、最近はどうやら下火のようである。情報過多の現実が消滅したわけでは勿論ない。にもかかわらず、それを口にすることが、時代おくれと感じられるようになったのは何故であろうか。

思いかえしてみれば、このことばの中には努力の要素もなければ、期待もなかったのではないか。山なす情報は到底処理できません、努力の限界を越えています。そういった逃げの意識が、奥にひそんでいたのではなかったか。

ことばの消長は意識のそれと一致しよう。昨今矢継ぎ早やに紙上に発表される、電子計算機の新機種の開発、目覚しい発達に、人は気圧されているようにすら見える。今どき、情報過多など口にしているようでは、拱手傍観しているのと同じではないか、電子計算機を活用する知恵が君にはないのか、あなたは無為無策、怠惰の徒ではありませんか。そんな声がどこからともなく聞えて来る、そのような雰囲気の中に、われわれはいつの間にか置かれているのである。何分にも当節は情報過多でございますので、などと腰を折り頭を掻いて、一時を糊塗していることは、もはや許されなくなって来た。どの分野においても電子計算機の導入は、避けて通ることができなくなっている。

学術研究上、的確な情報の入手と迅速化への期待は、痛切なものがあり、大学人にとって最も身近な図書館も、閲覧業務は勿論のこと、学術情報を電子計算機で処理する態勢を整えるべく、歩み始めることになった。

昭和48年学術審議会が、学術情報に関する問題点の指摘と将来の方向を、文部省に提示したのを契機とし、53年11月には文部大臣が学術審議会に対し、「今後における学術情報システムの在り方」について諮問し、これを受けて同審議会は54年６月に中間報告、ついで55年１月文部大臣に正式の答申を行った。

かくて、学術情報システムの整備は、緊急の課題として強く研究者の意識にのぼるようになり、目下、59年度後半に事業を開始すべく、計画が進められている。

わが国の学術情報システムの著しい立ちおくれを思えば、事は焦眉の急といわねばならない。海外ですでに成果の出ている課題を、それと知らずに研究しているようでは、世界の前列に立つことなど、到底望めない。世界の学者が、今なにを対象として、どのような方法で調査し研究しているか、そう

したことを一刻も早く知りたいのは、誰しも同じであろう。

それが解決の為には、まずデータベースの整備と全国的なネットワークの完成を急がねばならない。現に日本科学技術センターでは、オンラインによる情報検索、また漢字仮名まじりのアブストラクトが引き出せるＪＯＩＳⅡを開始した。しかし、純国産は理工系の分野のみで、他は米国製に依存している。現在データベースの数は、米国が圧倒的に多くて516、わが国ではまだ11しか作られていないというから、誠にお寒い話である。この面での急速な発展が切望される。

またネットワークの見地よりすれば、学術情報のシステム化実現の為に、学術情報センターが早期に設置されることが必要であり、同時に学術情報システムの基部組織として、大学図書館の電算化が急がれねばならない。

まず第一段階として各図書館は所蔵文献について、著者名・書名・分類等の入力に努め、将来はネットワークを通して、遠く離れた土地の端末機からも、必要な情報が引き出せ、相互に利用できるように、今から準備しなければならない。図書カードを一枚一枚めくったり、あちらこちらの図書館に問合わせたりする手間と時間の労費を省き、広域にわたる情報検索が、迅速に行えるようにせねばならない。

こうした事態の展開を予測して、本学附属図書館では、ここ数年来機会あるごとに電算機に関する学習を進めて来たが、昭和56年度の概算要求で、全学共同利用システムが認められたのを機に、本館に端末機７台、医・工両分館にそれぞれ端末機３台を導入し、図書館業務電算化を推進することになった。

昭和57年４月からは、閲覧業務を電子計算機によって行うこととし、それに備えて、本館・分館の開架図書６万５千冊につき、昨年11月よりＩＤラベルの貼付と書誌情報の入力を始め、本年２月完了した。また研究文献に関しては、学術雑誌総合目録（1978年版）所載の自然科学系・人文科学系外国雑誌のうちの本学所蔵分、及び本学所蔵の和雑誌について、新年度早々に入力を完了する予定である。

これ以外の蔵書についても、今後順次に目録カードの情報を入力してゆく計画であるが、ただ、当分の間は従来の業務と電算化のそれとを並行して進めねばならないので、相当の労力を必要とする。しかし、利用者が大きな便宜をうけることによって、研究の推進が期待されるからは、現段階で手間と時間をかけることを惜しんではならないと思う。

しばしば誤解されがちであるが、電子計算機を導入しさえすれば、その上に書物や目録カードを載せただけで、情報が入力される、といった結構な時代は、残念ながらまだ到来していない。全学の御理解と御協力をお願いしたい。

なお、近い将来にはジャパンマークのテープを備えることを検討中であり、これが利用できるようになると、毎年の国内刊行物についての検索に、威力を発揮できると思っている。

（附属図書館長・教授）

〈〈〈

のためのプログラム及びデータ出力のためのプログラム等を必要としますが、図書館職員と電算機業者で共同開発を行っています。

電算機による図書館業務を次の７つに分けてプログラムを開発し、また開発すべく計画しています。すなわち

(1) 要求管理サブシステム
(2) 予算管理サブシステム
(3) 予約管理サブシステム
(4) 検収管理サブシステム
(5) 図書整理サブシステム
(6) 閲覧管理サブシステム
(7) 利用者管理サブシステム

であります。

3 サブシステム

これら７つのサブシステムについて簡単に説明しておきましょう。

(1)(2) 要求管理サブシステムと予算管理サブシステム

各研究室等からの購入要求や予算について、総合的に管理を行い、また図書の受入要求についての情報を登録し、保守管理を行います。これにより、予算の執行状況についての情報も必要があれば、容易に提供することができます。

(3) 予約管理サブシステム

図書、雑誌等の購入のための予約、納品状況の管理や、図書、雑誌等の購入契約時での書誌的データ等の登録や保守管理を行います。このため納入遅れの点検や書店への督促等の業務も簡単になり、会計処理も迅速化することができます。

(4) 検収管理サブシステム

書店等から納入された図書、雑誌等について、受入番号、書名、著者名等の書誌情報、製本修理情報等を入力し、保守管理を行います。また、全日本出版物目録磁気テープ（JAPAN MARC）からの、標準データの取り込み等も計画し、必要データを合理的に管理します。

(5) 図書整理サブシステム

検収管理サブシステムの段階までに、入力された諸種のデータを、より利用し易くするため、データを点検・付加・加工いたします。受入図書速報、増加目録、主題目録など、各種の冊子体目録の打出しも加能になります。また、研究室等の端末機から、直接必要情報を検索することが可能になります。所在場所データも、全学的視野で詳しく検索できます。

(6) 閲覧管理サブシステム

図書、雑誌の貸出、返却及びそれに伴なう情報の管理システムです。カウンター端末機のOCRハンドスキャナーを使って、貸出の条件（冊数、期間、利用資格等）を点検し、貸出・返却処理は、従来の手作業から電算機による処理に移行します。

このシステムには、このほか利用者が必要とする図書が貸出中の場合の予約や督促状、研究室貸出薄の出力等のプログラムが含まれています。

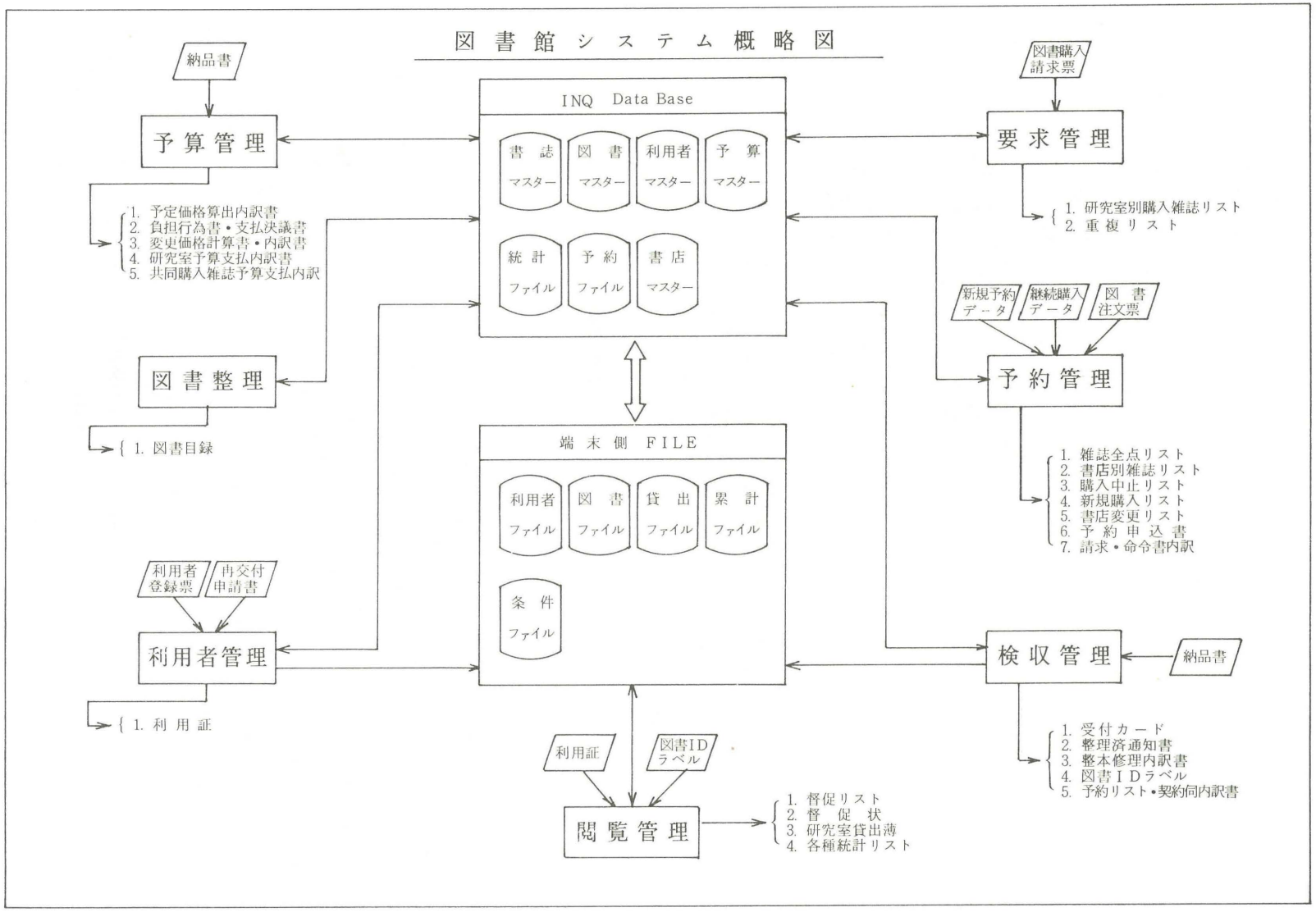
(7) 利用者管理サブシステム

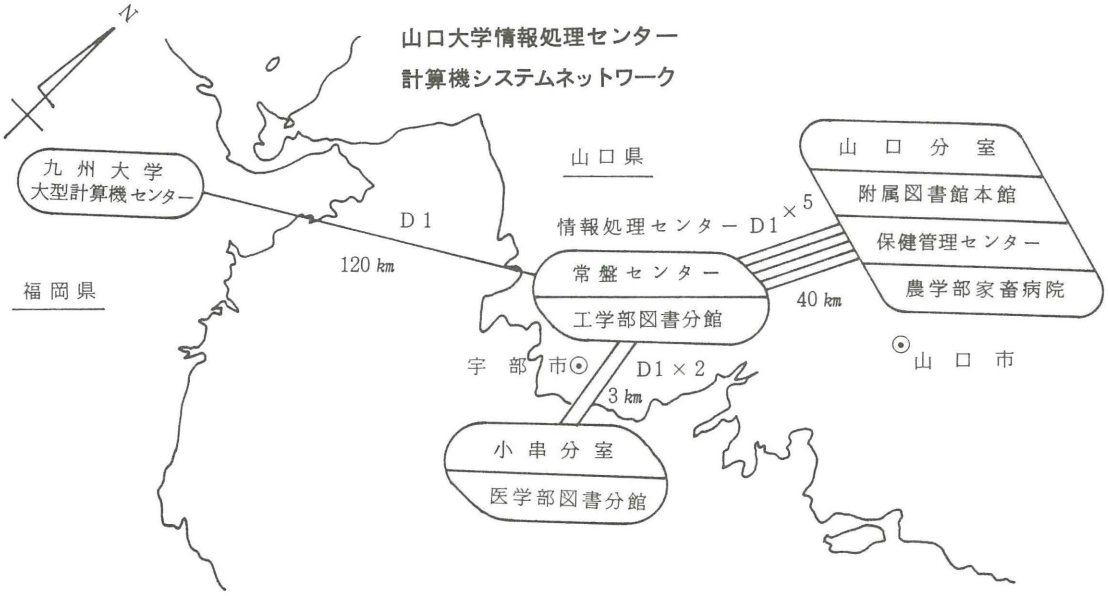
学生、教職員の所属、身分、学年、氏名および現住所等の情報を保守管理し、また図書館利用証の発行を行います。

4 業務の進捗状況

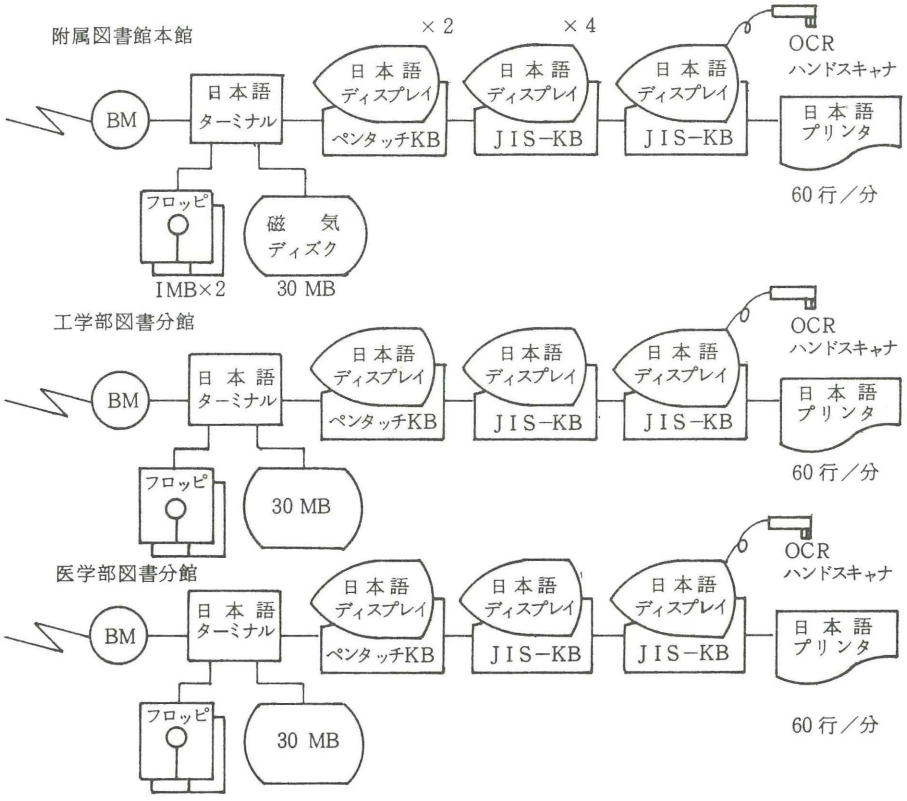
第１段階として閲覧関係業務の本稼動を予定し、このための準備作業として、本館・分館の開架図書約６万５千冊と雑誌約８万冊を対象にＩＤラベルを貼付し、これら図書の簡単な書誌的情報をデーターとして入力して居りますが、当初の計画どおり、ほぼ２月中には終了する運びとなりました。また、閲覧管理、利用者管理関係のプログラム開発も、３月には、テストの段階に入りますので、４月から閲覧業務を稼動することができ、開架図書の簡単な検索も可能となるでしょう。検収管理、要求管理、図書整理、予算管理、要求管理等のプログラムは、57年度中に、順を追って開発していきますが、電算機業者のSE（システムエンジニア）の都合もあり、全システムの本稼動は58年度の前半くらいになるかと予測しています。

図書館システム概略図


納品書
予算管理
1. 予定価格算出内訳書
2. 負担行為書・支払決議書
3. 変更価格計算書・内訳書
4. 研究室予算支払内訳書
5. 共同購入雑誌予算支払内訳
図書整理
1. 図書目録
利用者登録票
再交付申請書
利用者管理
1. 利用証
INQ Data Base
書誌マスター
図書マスター
利用者マスター
予算マスター
統計ファイル
予約ファイル
書店マスター
端末側 FILE
利用者ファイル
図書ファイル
貸出ファイル
累計ファイル
条件ファイル
利用証
図書ID ラベル
閲覧管理
1. 督促リスト
2. 督促状
3. 研究室貸出簿
4. 各種統計リスト
図書購入請求票
要求管理
1. 研究室別購入雑誌リスト
2. 重複リスト
新規予約データ
継続購入データ
図書注文票
予約管理
1. 雑誌全点リスト
2. 書店別雑誌リスト
3. 購入中止リスト
4. 新規購入リスト
5. 書店変更リスト
6. 予約申込書
7. 請求・命令書内訳
検収管理
納品書
1. 受付カード
2. 整理済通知書
3. 整本修理内訳書
4. 図書IDラベル
5. 予約リスト・契約伺内訳書


山口大学情報処理センター
計算機システムネットワーク
N
九州大学
大型計算機センター
D1
120 km
福岡県
山口県
情報処理センター D1×5
常盤センター
工学部図書分館
40 km
山口分室
附属図書館本館
保健管理センター
農学部家畜病院
山口市
宇部市
D1×2
3 km
小串分室
医学部図書分館

機器構成図


附属図書館本館
BM
日本語
ターミナル
×2
日本語
ディスプレイ
ペンタッチKB
×4
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
OCR
ハンドスキャナ
日本語
プリンタ
60行／分
フロッピ
IMB×2
磁気
ディスク
30 MB
工学部図書分館
BM
日本語
ターミナル
日本語
ディスプレイ
ペンタッチKB
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
OCR
ハンドスキャナ
日本語
プリンタ
60行／分
フロッピ
30 MB
医学部図書分館
BM
日本語
ターミナル
日本語
ディスプレイ
ペンタッチKB
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
日本語
ディスプレイ
JIS−KB
OCR
ハンドスキャナ
日本語
プリンタ
60行／分
フロッピ
30 MB

☆　お　知　ら　せ　☆

貸出、返却業務の電算機処理について

附属図書館では、本館、分館とも昭和57年４月１日から図書の貸出、返却業務を全面的にコンピューター処理に変更することになります。このため、現行の図書館利用証や貸出、返却の手続き等が以下のとおり変ることになりますので、ご面倒でも、なるべく早めに閲覧カウンターで手続きを済ませてくださるようお願いします。

◇図書館利用証（図１参照、以下「利用証」という。）

現在、ご使用中の利用証は、昭和57年４年１日からは通用しなくなります。新しい「利用証」に切換えなければなりません。新しい「利用証」には、みなさん一人ひとりの新しいＩＤナンバーが与えられ、図書館を利用するに当っては、そのＩＤナンバーによって事務処理をいたします。

新しい「利用証」は、次に述べる「利用登録」をして交付されることになります。

（図１）

◇図書館利用登録票（別紙図２参照、以下「登録票」という。）

新しい「利用証」を作成するためには、この「登録票」にみなさん一人ひとりから必要事項を記入してもらわねばなりません。この「登録票」は、閲覧カウンターに用意してありますので、直接カウンターに出かけて記入してください。「登録票」の記入に当っては「登録票」記入上の注意（書）をお渡しするとともに記入例もありますので、よく読んで間違いのないよう正しく記入してください。「登録票」の記入の受付は２月15日から開始しておりますので身分証明書を持参してなるべく早く登録を済ませてください。

◇「利用証」の交換

上記の「登録票」の記入により図書館の利用登録をされるとき、カウンターで新しい「利用証」の交付期日をお知らせします。この新しい「利用証」をお渡しするときは、旧利用証と引き換えになりますので、旧利用証をお忘れなくご持参ください。

◇新しい利用方式について

入館のときは「利用証」を携帯してください。一階の一般閲覧室だけを利用する場合は、特に「利用証」の提示は不要ですが、２階以上で利用される場合は、２階入口カウンターで「利用証」の提示をしていただきます。

但し、貸出し利用をされない方は、これまで通り身分証明書の提示でも入館できます。

(1)　貸出

借り出し利用をされたいときは、その図書と一緒に新しいあなたの「利用証」をカウンターに提出して貸出し手続きを受けてください。ただＩＤラベル未貼付の書庫内図書を借用されようとするときは、これまでのように貸出し手続きの折に「借用書」に必要事項を記入していただくことがあります。なお、参考図書（辞書、辞典、事典、白書、統計その他参考書架に排架のもの）等で貸出しできないものもあります。

(2)　返却

新しい方式では借りていた図書をカウンターの係員にお返しになるだけで「利用証」の提示は不要です。

(3) 予約

借りたい図書が既に他の人に貸出されているようなときは、その旨をカウンターの係員に申出てください。

電算機で予約受付をしてその予約図書が返却され次第、館内の掲示板に電算機打出しのリストを表示します。(又は、電話連絡します。)

なお、この予約図書は表示後(又は連絡後)一定の期間内に借用申し出がなければ取消すことになります。

(4) 問合せ

借り出し利用中の図書について返却日が何日になっているか等についての問合せや、連絡のときは、あなたの「利用証」のＩＤ番号と問合せたい図書に貼付してあるＩＤ番号を、お知らせくだされば お答えすることができます。

◇返却期限の厳守について

借用された図書は、返却期限内に必ずお返しください。もし、返却期限が過ぎた図書を未返却のままでいると、たとえ、借用冊数制限枠内であっても、別の図書の借用はできないことになります。また返却が期限超過をするだけ貸出禁止期間が延長されることはこれまでと変りありません。更に一定の返却期限超過者については電算機打出しのリストにより館内掲示板に表示してお知らせすることになりますので返却期日には、充分注意して期限内にお返しください。

◇電算機処理移行に伴う経過措置について

現行方式から電算機方式に移行するに当って、次のような経過措置を講じますので、ご協力をお願いします。

(1) 今春卒業予定者への貸出・返却について

今春卒業予定の方に対する図書の貸出し業務は２月27日(土)までを以て終了させていただきます。

従って、最終返却日は、図書は３月13日(土)、雑誌は３月２日(火)となりますので返却日を忘れないようにお返しください。また、もし未返却の図書をお持ちの方は最終返却日までに是非お返しください。

(2) 春季の長期貸出中止について

今回は電算化のための諸作業の遂行その他の事情により春季休暇の長期貸出しはとりやめることにいたします。

(3) 臨時休館について

前項同様電算化のための図書の点検やＩＤラベルの貼付作業などのため３月20日(土)から３月31日(水)まで臨時に休館いたします。

(4) 借用中の図書の返却について

現在借用中の図書は返却期限内にお返しください。１冊でも未返却があれば４月１日からの新方式による利用ができなくなります。今年度の最終返却日は３月19日(金)です。それまでには、是非返却してください。もし、やむを得ない事情等で返却が遅れていたり、又は、紛失のため返却できないでいるなどの方は、至急カウンターに来て係員に申し出てください。　　(閲覧係)

〔注〕 別紙(1)の注意書を良く読んで
記入して下さい。

図書館利用登録票

受付　　年　　月　　日

所　属		利用者コード	
身　分	身分証明書番号	交付年月日	年　月　日
部局・学科コード	※※※※ 入学年度	身分区分 ※ ☎(学内)	有効期限　年　月　日
氏　名			
フリガナ		☎	
現住所 漢字等で記入			
カタカナ・数字等で記入	都・道・府・県	市・郡	
	区・町・村 番地その他	〒	
帰省先(父兄)氏名			
フリガナ		☎	
帰省先住所 漢字等で記入			
カタカナ・数字等で記入	都・道・府・県	市・郡	
	区・町・村 番地その他	〒	

山口大学附属図書館

昭和55年度全国共同利用図書資料（大型コレクション）案内

大学名	図書資料名
東北	アメリカ各州判例集
秋田	児童発達、精神病学及び心理学古典コレクション
図書館情報	NTIS、図書館学・情報科学研究レポート 1971～1976
★千葉	ゲルマン史料集成－史家、法律、国王文書等
★東京外国語	モンゴル文大蔵経
東京学芸	フランス教育学集書
★横浜国立	世界各国地図帳集成（歴史地図帳、経済地図帳、地域別地図帳、オリテリウスの世界舞台等）
名古屋	ホッブスを中心とするイギリス思想史原典コレクション第二期
京都	ペルシャ語文献資料集成
奈良教育	ドイツ・スポーツ教育学コレクション
奈良女子	都市問題博士論文集
島根	ドイツ最高裁判所全判例集セット
岡山	グローズ・シレー判例集
★広島	ドイツ大学史コレクション

★印は10月以降、コレクションの内訳・目録の送付を受けたものです。
詳細は本館参考相談室（内線 788 ）へお尋ねください。

日誌

56年10月 6 日(火)　埼玉大学附属図書館　坪井照男館長来館
10月 6 日(火)～ 8 日(木)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於工学部分館、本館）
10月14日(水)　国立国会図書館閲覧部運営課　大橋一雄副主査来館
10月26日(月)～28日(水)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於工学部分館、本館）
11月 6 日(金)　本館に端末機（第１次）搬入。ターミナル－式、ラインプリンター１台、ＳＫＢ３台
11月10日(火)　第37回附属図書館運営委員会（於事務局会議室）
11月11日(水)～13日(金)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於本館、工学部分館）
11月12日(木)　工学部図書委員会
11月16日(月)　第６回本館図書委員会（於事務局会議室）
11月18日(水)～20日(金)　第22回中国・四国地区大学図書館研究集会（於徳島大）本館より３名、医学部、工学部分館より各１名参加
11月18日(水)～25日(水)　図書ＩＤラベル貼付作業のため本館臨時休館
11月20日(水)～28日(土)　図書ＩＤラベル貼付作業のため工学部分館臨時休館
11月24日(火)　医学部分館で図書ＩＤラベル貼付作業開始
11月24日(火)～26日(木)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於工学部分館、本館）
11月25日(水)～26日(木)　第８回国立大学図書館協議会中国・四国地区協議会、係長会議（於鳥取大）
11月26日(木)　本館で初期データ入力作業開始
12月11日(金)　工学部分館に端末機搬入。ターミナル－式、ラインプリンター１台、ＰＫＢ１台、ＳＫＢ２台
12月14日(火)　本館に端末機（第２次）搬入。ＰＫＢ２台、ＳＫＢ２台
12月17日(木)～18日(金)　広島大学附属図書館板垣護人氏を迎え、図書（雑誌）データベース設計討論会（於本館）
12月21日(月)　図書館職員研修会：講師京都産業大学　小田泰正教授
12月22日(水)～23日(木)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於工学部分館）
12月24日(金)　医学部分館に端末機搬入。ターミナル－式、ラインプリンター１台、ＰＫＢ１台、ＳＫＢ２台
57年１月11日(月)　医学部分館で初期データ入力作業開始
１月13日(水)　愛媛大学附属図書館　平川友視閲覧課長、岡田久係長来館
１月18日(月)　工学部分館で初期データ入力作業開始
１月25日(月)　日本電気㈱図書館担当ＳＥとの打合せ会議（於工学部分館）
１月28日(木)　同　上　（同　上）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線 788